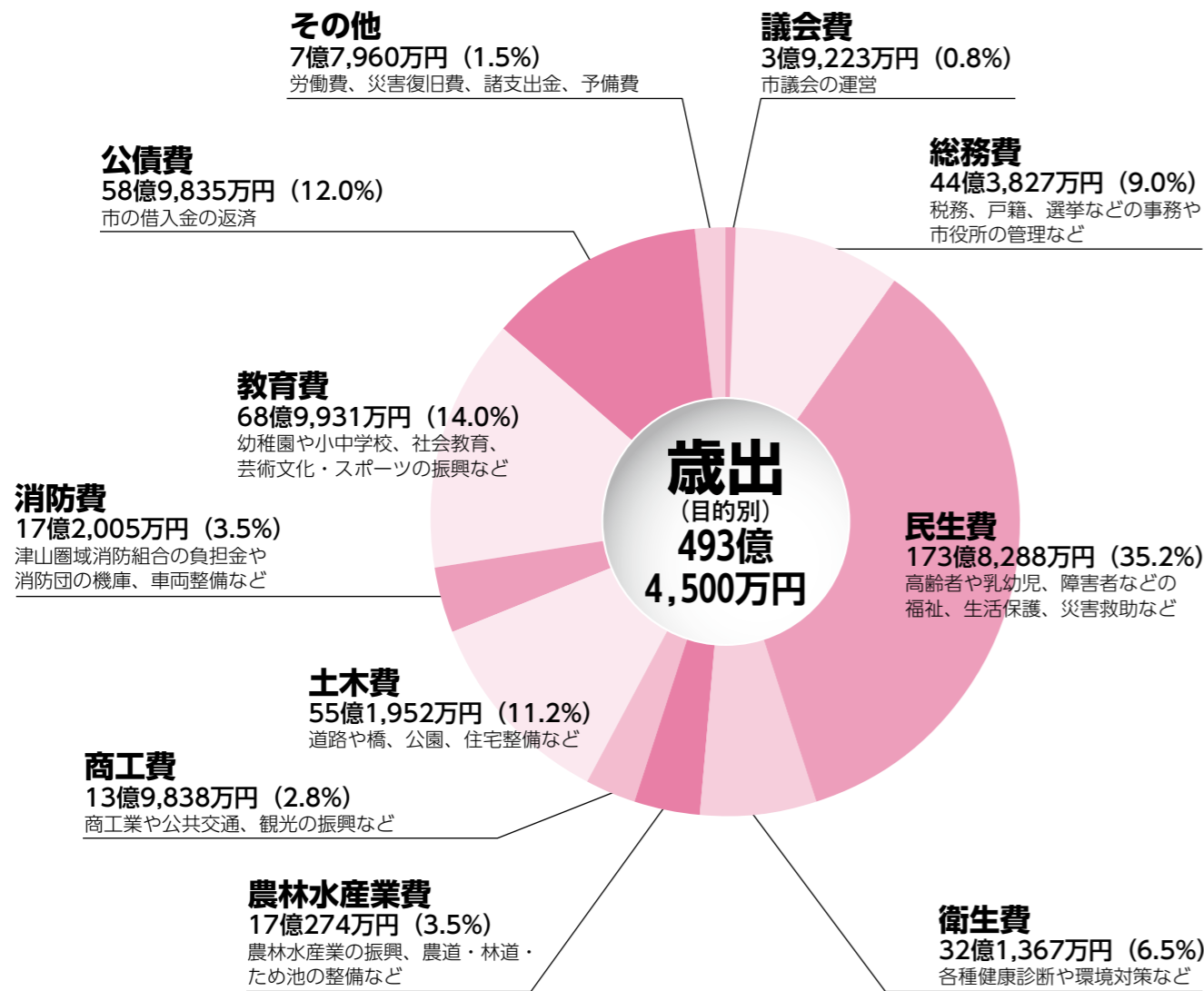


平成28年度当初予算の

概要をお知らせします

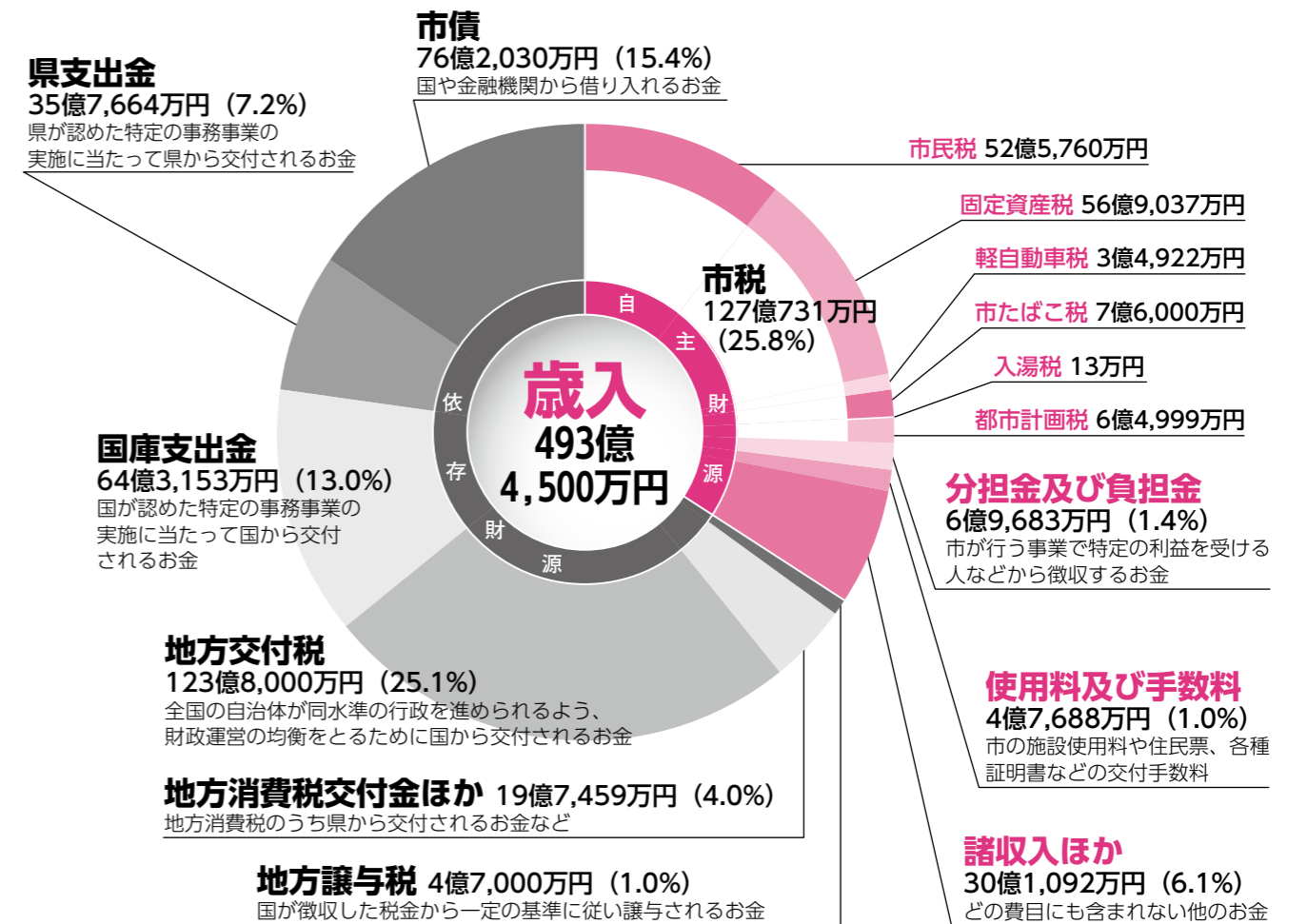
一般会計当初予算

閏財政課（市役所6階） ☎32-2020



自主財源	168億9,194万円 (34.2%)
市税や使用料・手数料など、市が自主的に収入するお金	
依存財源	324億5,306万円 (65.8%)
国や県の基準に基づき、交付されたり割り当てられたりするお金	

(注) %の数値は、小数第2位を四捨五入したもの



区分	予算額	構成比
人件費	71億1,227万円	14.4%
物件費	55億3,543万円	11.2%
維持補修費	2億2,556万円	0.5%
扶助費	104億3,275万円	21.1%
補助費等	60億 723万円	12.2%
普通建設事業費	79億8,061万円	16.2%
公債費	58億9,622万円	11.9%
繰出金	56億1,746万円	11.4%
その他	5億3,747万円	1.1%
歳出合計	493億4,500万円	100.0%

- 歳出のポイント (性質別)**
- 扶助費は、障害者介護給付費や保育事業委託費の増などにより2億1千万円(2.1%)の増
 - 人件費は、職員退職手当の減などにより2億8千万円(3.8%)の減
 - 公債費は、市債の元利償還金の増により3億4千万円(6.1%)の増
 - 普通建設事業費は、小・中学校施設整備事業や道路整備事業の増などにより23億5千万円(41.7%)の増

- 歳入のポイント**
- 市税は、固定資産税(家屋・償却分)の増などにより3億8千万円(3.1%)の増
 - 地方交付税は、合併特例期間終了後の縮減率の拡大などにより7千万円(0.6%)の減
 - 国庫支出金は、子ども・子育て支援制度負担金や社会資本整備総合交付金の増などにより3億円(4.9%)の増
 - 市債(市の借入金)は、小・中学校施設整備事業などにより17億円(28.6%)の増

平成28年度当初予算は、本年度からスタートする津山市第5次総合計画に掲げた開花プログラムを実施していくため、事務事業を見直すなど、限られた財源の重点化に努めるとともに、基金の活用も図りながら編成しています。

特に「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、平成27年度補正予算(第5次)に計上している地方創生加速化交付金事業と合わせて総合的に取り組み、「地域産業の活性化対策」や「子ども子育て支援対策」などへ重点的に予算配分をしています。

当初予算の特徴